

## RR-01「農業生産活動がもたらす中山間地域への波及効果について」

課題提案者：岩手県農林水産部農村計画課

研究代表者：総合政策学部 吉野英岐

研究チーム員：鷲野健二、小野寺健一、菊池俊次、吉田長貴（岩手県農林水産部農村計画課）

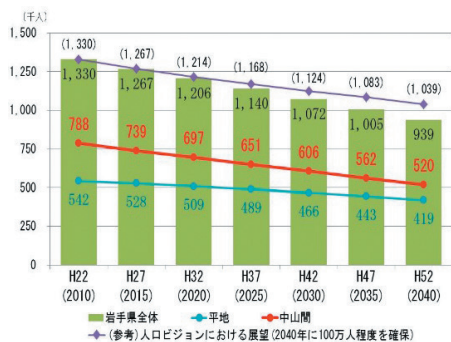
## &lt;要 旨&gt;

岩手県の中山間地域は、人口減少や高齢化の傾向が著しく、集落の機能が低下し、農業生産機能や県土保全等の多面的機能を果たすことが困難になりつつある。岩手県では、農業を核とした中山間地域活性化の推進方向を示す「いわて農業農村活性化推進ビジョン」を平成28年2月に策定し、このビジョンを実現するための取組として、県内へ波及が期待される地区をモデル地区として選定して重点的に支援を行っている。本研究ではモデル地区に選定された事例のうち、洋野町大沢地区と釜石市橋野町地区を対象に、総合政策学部吉野研究室がもっている調査経験と調査技法をもとに、教員と学部生で現地を訪問し、現地調査と意見交換（ワークショップ）を実施したうえで、地域の将来像の明確化とそのためのアイデアを提示し、モデル地区内の住民の意欲の向上とビジョンの実現に寄与した。

## 1 研究の概要（背景・目的等）

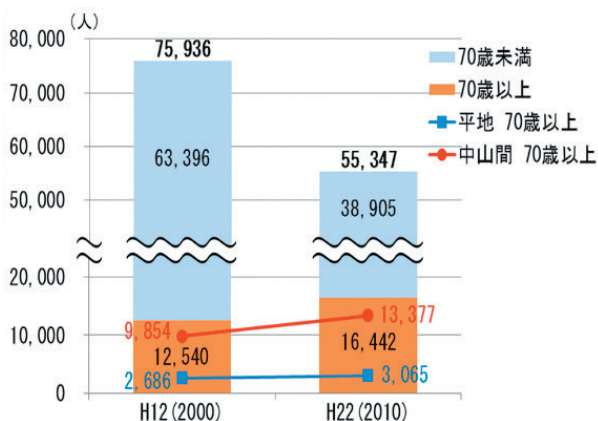
## ①解決すべき課題および研究の必要性【必要性・重要性】

岩手県の中山間地域は、県土の8割を占めている。中山間地域は、農業生産機能はもとより、県土保全、自然環境維持、地域に根ざした伝統文化の継承などの多面的機能を有している。これらの機能の維持増進には、住民による農業生産活動の継続が不可欠であるが、中山間地域は平地地域に比べ人口減少の度合いが大きく、農業者の高齢化も進んでいることから、今後、急激に地域活力が低下することが懸念される。（図1、図2参照）



出典：国立社会保障・人口問題研究所 及び 岩手県

【図1】岩手県の将来推計人口



出典：農林業センサス

【図2】岩手県の農業経営者数

岩手県は平成28年2月に「いわて農業農村活性化推進ビジョン」を策定し、本格的な対策に乗り出している。ビジョンの策定・実施にあたっては、農業振興による所得向上や雇用創出等の具体的な成果の検証および地域への波及効果の測定の手法開発と提示が喫緊の課題になっている。

## ②実施方法・取組みの概要

本協働研究では、農業振興事業の導入にあわせて、地域特性を活かした農業生産、加工・販売や、農村資源を活かした都市農村交流等に取組むモデル地区において、ビジョンの実現に向けた課題の整理、解決策の提示、そして地域住民の意識の醸成を図ることを目的として研究活動を実施した。具体的には、洋野町大沢地区と釜石市橋野町地区を選定し、教員と学生10名程度が10月と2月に1泊2日の行程でそれぞれの地区を訪問し、聞き取り調査とワークショップ、意見交換会、学生によるアイデアの提示を実施した。

## 2 研究の内容（方法・経過等）

## ①洋野町大沢地区での調査

調査対象は洋野町大沢地区の大沢農業振興会で、調査日程は2016年11月12日（土）～13日（日）、参加者は教員1名（吉野）と学生12名（4年生1名、3年生7名、2年生4名）である。活動内容は、12日は地元住民組織で運営している体験、宿泊、直売等の集客施設であるアグリパーク大沢でそばうち体験、アグリパーク大沢の概要の聞き取り、隣接するおおさわ親水公園、大沢農業振興会が運営するアグリ農園の見学およびキュウリ作業の体験、地元の方々と懇談会、宿泊。13日は下大沢武志会長による大沢地区の歴史に関するレクチャー、栽培拡大中のキュウリや冬期イベントを盛り上げるためのワークショップ、アイデア発表会を実施した。このほか、種市地区の復興食堂「はまなす亭」、種市漁港、中心市街地の見学などを行った。

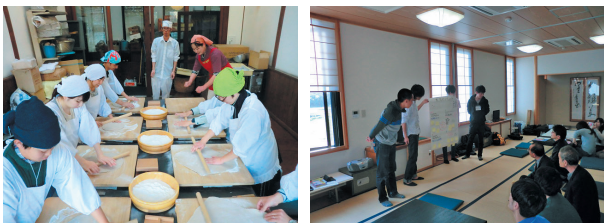
## ②釜石市橋野町地区での調査

調査対象は釜石市橋野町地区の橋野町振興協議会で、調査日程は2017年2月18日（土）～19日（日）、参加者は教員1名（吉野）と学生10名（4年生1名、3年生7名、2年生2名）である。活動内容は、18日は栗橋ふるさと伝承館でそばうち・豆腐作り体験、地域の概要の聞き取り、ビジョンで取り組む梅園予定地、地区内の発電所、三浦命助碑、世界遺産の橋野鉄鉱炉跡の見学、地元の方々との懇親会、民泊。19日は菊池成夫会長による橋野町地区の歴史に関するレクチャー、栽培計画中の梅を使った景観整備、特産品開発等に関するワークショップ、アイデア発表会を実施した。このほか、釜石中心市街地の商業集客施設の見学、大観音、道の駅の見学を行った。

## 3 これまで得られた研究の成果

洋野町大沢地区でのワークショップとアイデア発表会においては、特産品化を進めているキュウリの出荷時に端物（規格外品）がでることから、出荷できないキュウリを活用したキュウリ風呂やキュウリのオブジェを制作展示することで、キュウリの生産を広く来場者にPRするアイデアが提示された。また冬季の集客用のイルミネーションの設置については、施設のエントランス付近や入浴施設をイルミネーションで飾ることで、来場者の興味を引き付ける方策が提案された。

これらのアイデアの一部はイルミネーションの電飾のプランに実際に採用された。



釜石市橋野町地区でのワークショップとアイデア発表会においては、これから栽培に取り組む梅の生産、加工にむけて、美しい梅園の形成や、梅の加工品づくりなどが提案された。またマイタケについては技術確立がまだ整っていないため、商品化のアイデア出しまでに至らなかったが、地元産のそばと組み合わせたメニューの開発などが提案された。



このように条件の厳しい中山間地域であっても、新しい作物の導入やアイデア次第で、住民の意欲の向上や前向きな意識の萌芽がみられた。特に、大学生という若い世代が実際に現地を訪問して、懇親会や宿泊・民泊をしながら、現地の方々とコミュニケーションをとり、アイ

デアを作成、披露する場を共有することが、住民の方々にとって大きな意味を持っていることを再確認できた。地元からみれば、若い世代が中山間地域の状況に関心をもち、ともに作業をしながら課題解決にむけてアイデアをだしあうことは、次の世代への確かな期待の実感と、そのための活動の継続や伝承への意欲を高める効果があることも確認できた。

学生にとっても、現地調査は貴重な体験の場となり、机上での学習では得られない実感と手ごたえを得ることができた。とくに地元の方々とコミュニケーションをとる機会を多く持ったことで、上の世代の方々の実績と課題を共有することができた。

## 4 今後の具体的な展開

岩手県農林水産部がすすめている政策である「いわて農業農村活性化推進ビジョン」の策定とモデル地区における活動の重点的推進はまだ緒についたばかりである。今後はこの施策が効果をあげていくために、有効な支援策や実質的な成果の測定を行っていく必要がある。

今回の研究は施策の初年度ということもあり、まだ成果を測定するところまではいかなかったが、今後は活動の持続的な展開に必要な条件や要素の把握、そのための実践力を向上させる仕組みづくり、そしてビジョンの策定、実践に取り組む中山間集落の持続性の向上を実現していかなければならない。

また今回の対象地（モデル地区）においても活動の継続や発展を実現していくために、今回の研究が起爆剤になって新たな活動が生まれるように支援を継続していく必要がある。

本研究により、モデル地区における農業がもたらす様々な波及効果が具体的に示され、これを、地域活性化に取り組む集落や、行政機関、農業団体等の関係機関が共有されることで、関係者間において地域活性化に向けたノウハウが蓄積され、中山間地域の活性化に向けた地域の取組の円滑な実施や、県内全域への取組の拡大が期待される。

## 5 その他（参考文献・謝辞等）

今回の研究を実施していくにあたり、岩手県農業振興課、洋野町役場、釜石市役所、地元の大沢農業振興会、橋野町振興協議会、調査に参加された地元の住民や関係者の方々、そして調査を実施した岩手県立大学総合政策学部の学生に改めて謝意を表します。

### 参考文献

吉野英岐「農山村地域は縮小社会を克服できるか」地域社会学会編『地域社会学会年報21』ハーベスト社、2009年  
吉野英岐「集落の再生をめぐる論点と課題」日本村落研究学会監修・秋津元輝編『村落社会研究45集落再生』農山漁村文化協会、2009年